



各位

会社名 第一建設工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 内田 海基夫
 (コード : 1799 東証スタンダード市場)
 問合せ先 取締役 常務執行役員
 経営本部長 早川 晴彦
 電話番号 025-241-8111

(訂正)「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」の一部訂正について

2026年5月13日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」につきまして、記載事項の一部に誤りがございましたので下記のとおり訂正いたします。

なお、訂正箇所は、下線を付して表示しております。

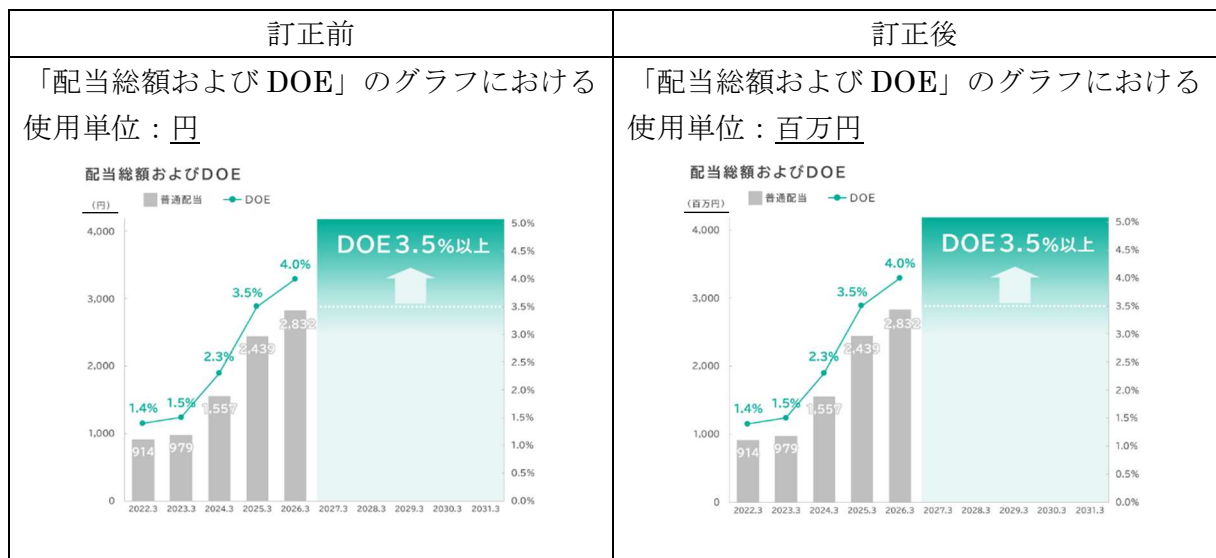
記

【訂正箇所】

2 ページ：現状認識

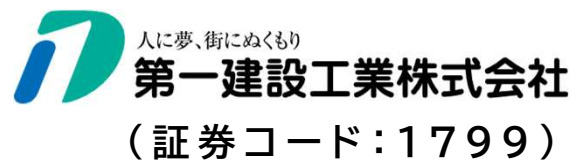
訂正前	訂正後
リスクフリーレート:2026.03.31 新発 10 年 国際複利終値	リスクフリーレート:2026.03.31 新発 10 年 国債複利終値

4 ページ：資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み



以上

資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について



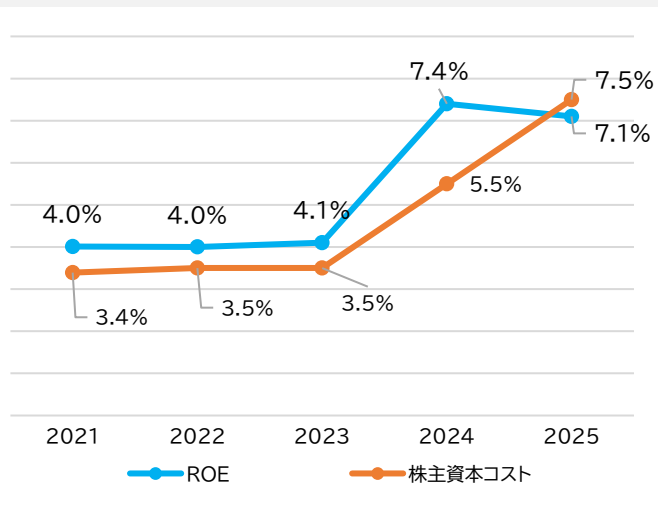
現状認識



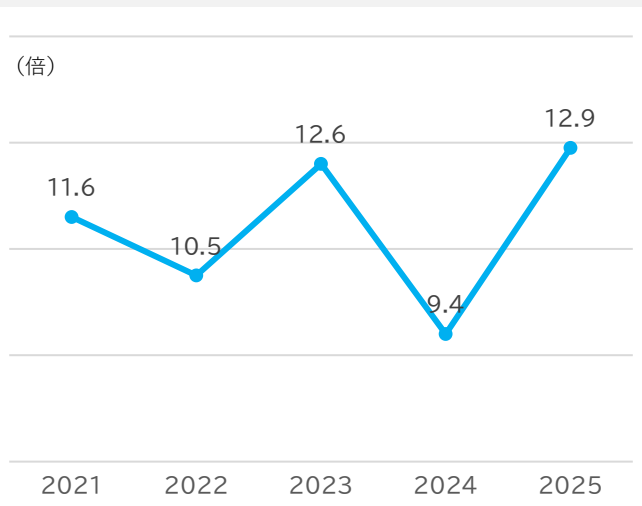
現状分析・評価

- ROEは、自己資本の収益力向上により7%台まで改善したものの、金利上昇の影響により上昇した株主資本コスト[※]7.5%を下回る。
- PBRは、PERの上昇を背景に0.92倍まで回復したものの、1.0倍を下回る。

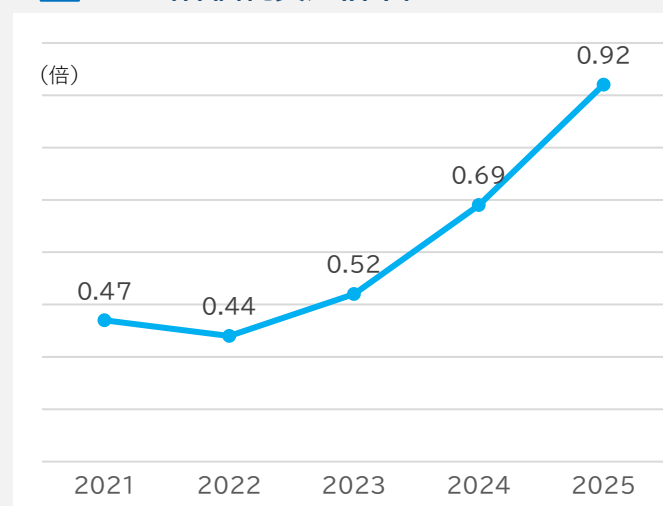
(株主資本コストとROE)



PER(株価収益率)



PBR(株価純資産倍率)



※株主資本コストの算出【CAPM(資本資産評価モデル)】

$$\begin{aligned} \text{株主資本コスト} &= \text{リスクフリーレート} + \beta(\text{感応度}) \times \text{エクイティリスクプレミアム} \\ 7.5\% &= 2.324\% + 0.795 \times 6.45\% \end{aligned}$$

リスクフリーレート：2026.03.31 新発10年国債複利終値

β (感応度)：当社株価とTOPIXの過去データ(月次)を用いて算出し、次式で修正(修正 $\beta = 2/3 \times \beta + 1 \times 1/3$)

※統計誤差および β 値の回帰性を考慮して $\beta = 1.0$ に近づけるため修正(修正前 $\beta = 0.692$)

エクイティリスクプレミアム：1972年～2025年の期間数値(6.45%)を利用

指標

ROE(自己資本利益率) 7.1%(前期比▲0.3%)

株主資本コスト 7.5%(前期比+2.0%)

PER(株価収益率) 12.9倍(前期比+3.5倍)

PBR(株価純資産倍率) 0.92倍(前期比+0.23倍)

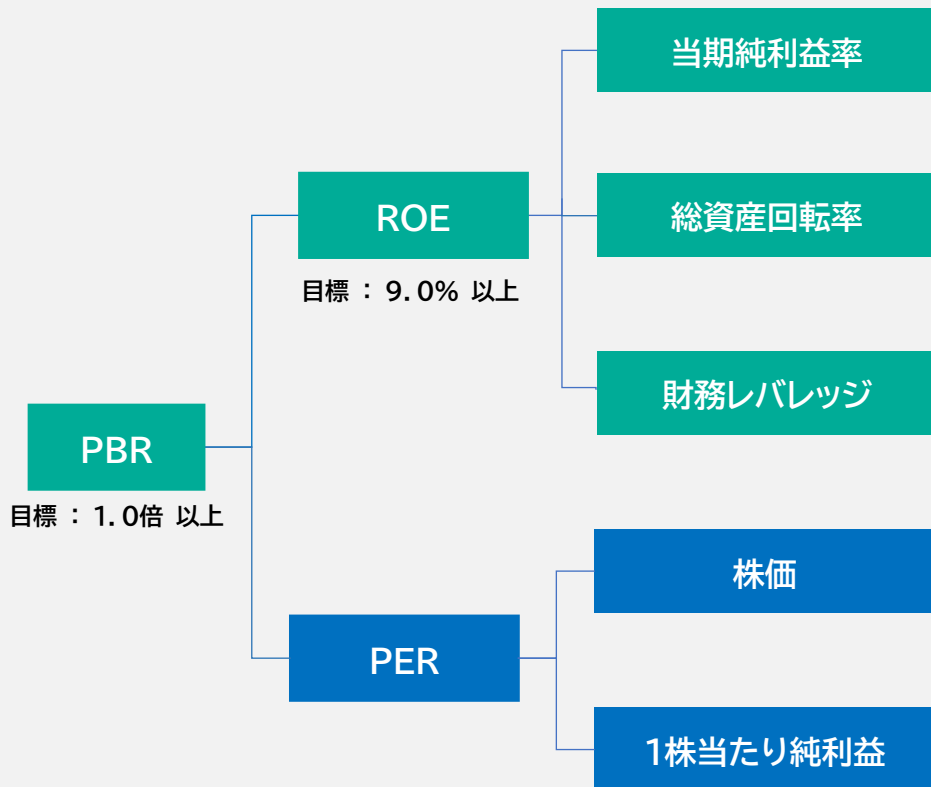
2026年3月末株価 3,795円(前期末比+1,180円)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み



PBR向上に向けた主な取り組み

- PBRは、分解すると「 $PBR = ROE(\text{自己資本利益率}) \times PER(\text{株価収益率})$ 」となるため、収益率の向上と共に、成長期待度を高めることでROEとPERの向上を図る。



主な取り組み

- 人的資本投資（技術力・品質管理能力他の向上）
- コスト削減とコスト管理の徹底
- 価格高騰に対応した適切な価格転嫁
- 事業の拡大(M&A含む)
- 事業領域の拡大(D-flip、Sto工法)
- AI活用による業務効率化・安全管理
- 首都圏民間鉄道からの受注獲得
- 資本構成の最適化
- 非効率資産の解消
- 設備投資の効率化
- 情報開示（決算・会社説明資料、ESG情報他）
- IR活動の充実（個別面談、IR説明会等を通じた対話の充実）

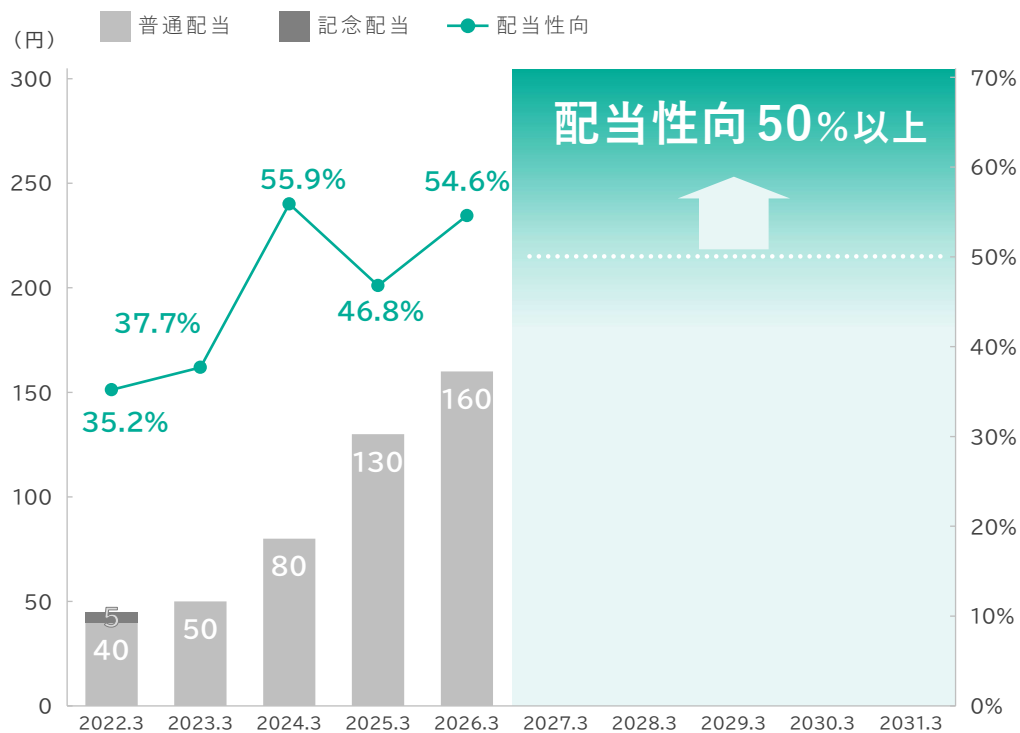
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み



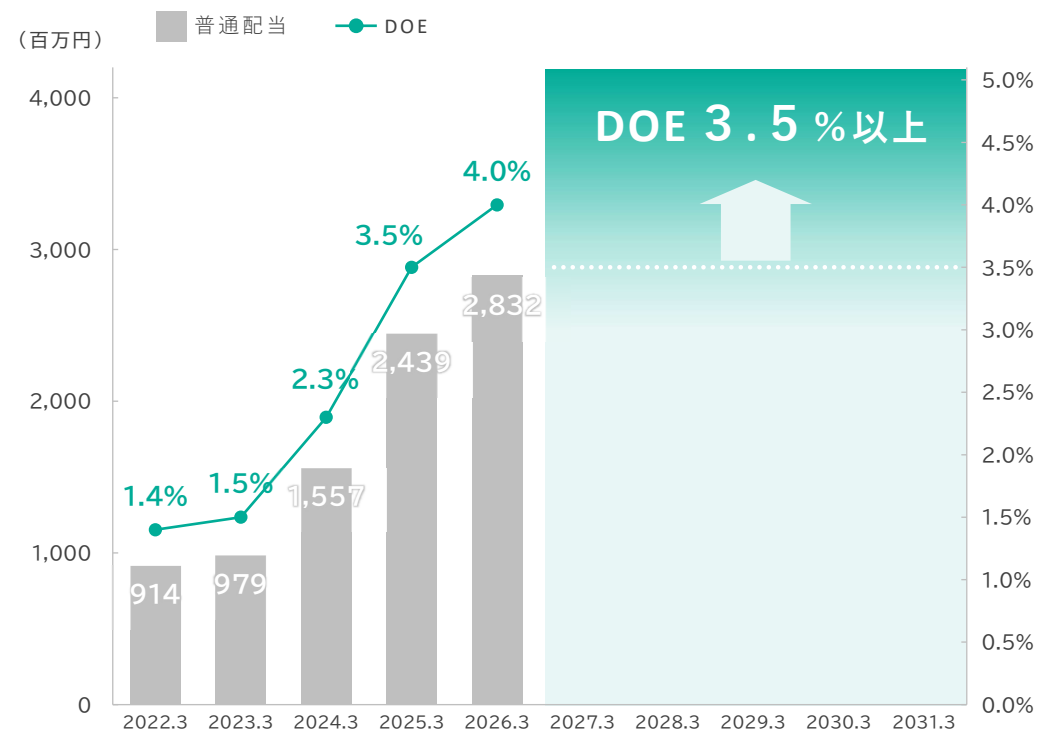
株主還元の充実

株主の皆様への利益還元と企業価値の最大化を重視しております。その取り組みの一環として、累進的な配当[※]による株主還元の充実を継続的に行い、各年度において配当性向50%以上に加え、DOE3.5%以上を目指します。

1株当たりの配当金および配当性向



配当総額およびDOE



※累進的な配当...配当金の水準を減らさずに維持または増配させる配当方針